

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2890700129
法人名	有限会社 豊地質
事業所名	グルーブホーム ゆたかの郷
所在地	兵庫県三木市宿原1263-86
自己評価作成日	令和5年2月24日
評価結果市町村 受理日	令和5年3月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)  
基本情報リンク先 <http://www.waim.go.jp>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人CSSウオッチ
所在地	兵庫県明石市朝霧山手町3番3号
訪問調査日	令和5年3月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- 【特に力を入れている点】
- ・換気の徹底による建物内部の臭い、感染症予防
  - ・利用者の保清(着衣・整髪・皮膚の状態・体臭・口臭など)
  - 【アピールしたい点】・職員の勤続年数が長い。
  - ・二階ベランダからの見晴らしが良い。
  - ・庭には四季折々の花が咲いている。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

【優れている点】本年度より苑長の息子さんが事業所を管理する事になったが、まだ短期間であるが上手な受け込みミーティングを発揮している。  
【工夫点】・見晴らしの良い高台に建てられ事業所。広大な風景と野鳥などと出会う機会もある。ベランダを有効活用できる点。・長年寄りそう職員との関係も良好です。自立支援に向けてデーター化し分析した排泄ケアや介護計画作成への取り組み。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果	項目	取り組みの成果
	↑該当するものに○印		↑該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見ると、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見ると、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

# 自己評価および第三者評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己評価 第三者	項目	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>I. 理念に基づき運営</b>					
1	(1) ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入居者が安心して、自分らしく暮らせる場所となるために、他事業所と比べ、同じ職員が関わられる時間が多いという特性を生かしたケアを日々実践している。	「認知症によって自立した生活が困難になった入居者に対して家庭的な環境のもとで、日常的な介助を通じて、人間の権利を尊重し安心と尊厳のある生活を支援します。」の事業理念を二階の共用フロアの壁に掲げ、管理者と職員は、理念を共有して実践につなげている。		
2	(2) ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルス感染症防止の為、直接対面での交流は中止している。	苑長が自治会や地区長と懇意にしており、近くの市有地の雑木林に市の許可を得て、種々の花を近所の方たちと一緒に育てる等を行い、利用者との交流を図っているが現在はコロナの為、利用者との直接対面交流は中止している。		
3	○事業所を力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	新型コロナウイルス感染症防止の為にボランティアの方々の受け入れを中止しており、文書で発信している。			
4	(3) ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご家族や地域住民、地域包括支援センターの方々の意見を参考に、職員全員で話し合い実践に活かしている。事故について発生要因、再発防止の助言を介護保険課、地域包括支援センターより頂いている。	運営推進会議は、ご家族や地域住民、地域包括支援センターの方達の意見を参考にしして事故の予防策を職員全員で話し合い実践に活かしている。	事故やヒヤリハット報告はされていますが、事故はヒヤリハット数はゾググラフ等を作成し、常に安全を旨とする事業所である事を目立つ場所等への掲示が期待される。	
5	(4) ○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	疑問な点や不可解な点など、常に市の担当者に相談を行っている。	ケアの方法等を市の地域密着型や介護サービスの担当者に相談を来なう等協力関係を築くように取り組んでいる。		
6	(5) ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が介護認定基準における禁止の対象となる具体的な行為を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体的拘束等の適正化のための指針を定め、運営推進会議において身体拘束適正化委員会を開催している。	年2回の身体拘束をしないケアの研修を行い、また運営推進会議において身体拘束適正化委員会を開催し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。		

自己 第三者	項目	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(6) ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	虐待防止の研修を実施しており、日々のカンファレンス等でも啓蒙を行っている。	年2回の虐待防止の研修を実施しており、日々のケアの中で無意識に虐待防止を見逃ごしていないか？等カンファレンスでも啓蒙を図り、記録に残すようにしている。。		
8	(7) ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	職員は研修を通じ制度を学び、日々のカンファレンス等でも啓蒙を行っている。	成年後見の可能性ある方が1名いたが入院&退所となりその際に行政書士に聞いた際繋がりができた。今後同様のケースが出た際この繋がりを大事に進めたいの意向を確認した。		
9	(8) ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	必ず利用者、家族に対し十分に説明を行い理解・納得を図っている。	利用者、家族に対し十分に説明を行い理解・納得を図っているが看取りに関し認知症の診断を受けていない方が多く、事業所であわレベル4迄受入れるとはなしている。		
10	(9) ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者とは常に、コミュニケーションを図り、家族等とは、花便りや手紙、電話等で密に連絡をとり、意見を運営に反映するようにしている。	入居者とは常に、コミュニケーションを図り、家族等とは苑長作成の花だよりや手紙、電話等で連絡を密に取りそこからの意見を運営に反映するようにしている。		
11	(10) ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	事業所に代表宅が隣接しており、管理者が常駐し職員と意見交換を行いやすい環境になつており、意見交換の中で良い案があつたら速やかに実践するよう努めている。	事業所に代表宅が隣接しており、また管理者が常駐し、職員と意見交換を行いやすく意見や提案を聞き易い環境になつている。		
12	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は職員個々の状態を把握できている。家庭の事情に合わせて勤務調整を行うなど職場環境の向上に努めており、社会保険労務士に相談している。			
13	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間の研修計画に沿って社内研修を行い、必要に応じてJOJTやオンラインでのトレーニングを行っている。			
14	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワーキングや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させたい取り組みをしている	新型コロナウイルス感染症防止の為、相互訪問等は中止しているが、オンラインでの勉強会等の活動を通じて、サービスの質の向上に努めている。			

自己第三者	項目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりを努めている	家族等周囲の支援者だけでなく必ず本人から直接困りごとや不安を探るよう努めている。		
16	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりを努めている	ホームの生活を説明し、信頼関係づくりをし、入居後は頻繁に電話連絡をして安心しただけよう努めている。月1回管理者が手紙をしたため家族に近況を発信している。		
17	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等がその時、サービス利用も含めた対応に努めている	自立支援を念頭にサービス導入前にアセスメントを経て本人、家族のセルフケアを優先し、インフォォーカルサービスの導入も積極的に行っている。		
18	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	清掃やリニア作りなどの作業を行うときは、必ず職員が入居者と一緒に行う、食事は同席するなど関係性の向上に努めている。また、一人ひとりのアルバムを作り、職員と共に過ごしている。ことで共有できるようにしている。		
19	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	電話や家族意見書で家族の意見を取り入れられるように努め、本人と家族の絆を大切にしながら、支えていける関係を築いている。		
20 (11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナウイルス感染症防止の為直接対面はご遠慮いただいております。電話やカラス越しで本人、家族の意向を踏まえ望まれた場合快く応じています。不定期ではあるが本人の馴染みの場所にお連れして関係継続を支援している。	職員は本人の思いに寄り添いながら、日々暮しの出来事など本人と一緒に支えるために良い関係を築いています。コロナ禍ですが受診やコロナワクチン接種時に以前の家に立ち寄り車中から懐かしさを感じる機会を得た	
21	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が入居者同士の関係をよく観察して食堂やリビングの席順を考慮し、孤立せずに入居者全員が家族のように過ごせるよう支援している。		
22	○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	電話や手紙など関係性を大切にしている。退所された方への心配りも行っている。		

自己 者三	第 三	項 目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望や意向を全職員が言葉だけでなく非言語コミュニケーションでも把握するよう努めている。困難な場合は本人の日頃の様子を慎重に観察し本人本位で検討を行っている。	その人らしい暮らし続けるために、思いや希望など把握に努めている。夕方から就寝を自室で過ごされる時間帯は1対1でお話できる機会となります。何をしたいのかどのように暮らしたいのか丁寧に聞き取りします。	「本人はどうか」の視点にたち又スタッフで意見を出し合い、話あっていく機会を設け全員で共有していきたいきましよう。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に必ず支援者から情報提供を求め入居後は本人との会話や家族の面会の際の思い出話を傾聴し、新たな情報が得られたら記録、職員間で共有するなどこれまでの暮らしの把握に努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員全員で、ささいな情報でも共有して把握に努めている。			
26	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の意向を尊重し、医療従事者、職員全員で話し合ってから介護計画を作成している。計画作成担当者が本人、家族に対し説明を行っている。課題に対し細やかにモニタリングを行っている。	介護計画は、モニタリングを繰り返しながら、設定期間ごとの見直しや本人の状態変化に合わせて計画作成担当者が実施している。排泄状況などデータ一タ一化させた情報をもとに課題分析し自立支援の視点で目標設定を行う		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子などや気づきを個別の介護日誌に随時記録し情報共有に努めている。毎朝ミーティングを行いケアの実践や計画の見直しに活かしている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	自立支援の理念に基づき、ニーズに対し介護ありきではなくセルフケア、インフォアールサービスを検討するなど柔軟な支援、サービスの多機能化に取り組んでいる。			

自己評価		外部評価	
項目	自己評価	実践状況	実践状況
29	<p>○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>地域の方々や他の事業所と情報交換し、地域資源の把握に努めている。また、本人の豊かな暮らしにつながる地域資源があれば、利用できるかを検討している。</p>	
30	<p>(14) ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>本人・ご家族が選ばれたかかりつけ医と事業所が協力して適切な医療が受けられるよう支援している。</p>	<p>入居時に説明し家族や本人が同意したかかりつけ医を選択している。かかりつけ医とは緊急時の相談など24時間体制が整っている。訪問看護師は週1回訪問と24時間体制で安心して適切な医療を受けられることができる。</p>
31	<p>○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>介護職員が気付いたことや変化を訪問看護師に伝え適切な看護を受けられるように支援している。</p>	
32	<p>(15) ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院した際安心して治療できるように又できるだけ早期に退院できるように病院関係者に情報提供をし、入院後は定期的に面会に行き情報交換、相談を行っている。また管理職が定期的に訪問し病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>医療機関に対して、入院の目的を早く達成してもらえよう情報提供書を渡している。コロナ前は面会に行っていたが今は連携室相談員と電話で情報交換を行う。早期に退院できるようにリハビリ専門職と連携し、動画でリハビリ確認を行うなど退院支援を行っている</p>
33	<p>(16) ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所で行えることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>重度化、終末期の方針について本人、家族と話し合いの場を設け主治医との話し合いにも積極的に同席している。本人、家族の意向を尊重し事業所としてできる事、対応を丁寧に説明し同意を得るよう努めている。職員や協力機関と方針を共有しチームとしての支援づくりに努めている。</p>	<p>入居時には「重度化に伴う指針」を作成し、説明したうえで本人、家族の意向を確認している。事業所が対応し得る最大のケアやできないことを確り説明したうえで、主治医や訪問看護師また職員が連携をとりながら安心して納得のいく最期を迎えられるように支援している。</p>
34	<p>○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>職員5名が応急手当普及員の資格を取得しており、急変時、緊急時対応マニュアルを整備している。また、AEDを設置している。</p>	
35	<p>(17) ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>事業所に代表宅が隣接しており、管理者が常駐し職員と意見交換を行いやすい環境になっており、意見交換の中で良い案があったら速やかに実践するよう努めている。</p>	<p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を、管理者が常駐し職員と意見交換を行い、避難できる方法を身に付けている。</p>

自己評価		外部評価	
自己	第三者	実践状況	実践状況
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプログラマーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプログラマーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員間で利用者の話をする時はインシヤルで話し排せ介助の際、他の利用者には悟られないように席を離れてから声かけをするなどプログラマーを尊重した対応を心がけている。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が思いや希望を表したり自己決定できるようにその方の言動を否定的に捉えないように心がけている。
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	清掃等の作業を行う時参加に消極的な場合は、無理に参加を促さず本人が自発的に参加してくるまで見守りをする等、一人ひとりのペースを大切にされた支援に努めている。
39		○身だしなみやおしやれの支援 その人らしい身だしなみやおしやれができるように支援している	緊急時を考え機能性を優先しつつその人らしい身だしなみやおしやれを大切にしつつ職員は入居者全員との調和が保たれるよう気配りしている。
40	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しみなものになるように、食材について説明を行い、入居者と職員が共同でお茶入れ、台拭き、お箸配り、配膳などの出来ることを役割分担して、食事をやっている。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるように、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日頃の観察から得た情報、体重、主治医に相談したことなどを考慮して、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた、食事内容、水分摂取量を提供している。
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアを行っている。
			ひとり一人の気持ちを大切に考えさげないケアを心がけたり、自己決定しやすい言葉かけをするように努めている。年長者としての敬意を払い、馴れ合いの中でも本人の尊厳を損なわないよう日常的に確認と管理者による改善に向け取り組んでいる。
			どのような場面でも食欲がわくかを把握し、食事への関心を引き起こすための工夫をしています。特別食ではおせち料理など提供されます。お味噌汁は畑で収穫野菜を使用し皆さん「おいしい」と喜ばれます。配膳やお箸準備、台拭きや片づけ、その方のできることでのお手伝いされます。

自己評価	第三者	項目	外部評価		
			自己評価 実践状況	実践状況	
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握して、失禁する前に、トイレ誘導する等、排泄の失敗やおむつの使用を減らすよう支援している。また、入居され始めのとき、表示板を使用してトイレの場所を覚えていただくようにしている。	自尊心に配慮し、利用者の様子が察知し、身体機能に応じて手を差し伸べたり、歩行介助を行う。排泄状況を把握しデータ化させることで排泄が困難な要因を丁寧にチェックし、パターンに応じた排泄支援を展開している。	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に	日々の排便の状況を観察し、主治医と連携して便秘の予防に取り組んでいる。		
45	(21)	○入浴を楽しくすることができるとの支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日や時間は出来る限り本人の意思を尊重している。	利用者のその日の希望や要望に合わせて週2回入浴していただく。夏場はシャワー浴も行います。重度化のため職員二人で対応する場合もあります。ゆず湯など四季折々に浴つた対応もされています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間安眠していただくように、日中リーズ作りや生活リズムをしていただくようにしている。休憩は、入居者のその日の状態、気候などを考慮して適宜していただくようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者には服薬時説明を行い、各自の服薬表をフリップして、職員がいつでも確認できる場所に保管している。また、薬の変更があり状態の変化がみられる場合は、主治医に相談し、バイタルチェックをこまめに行うなどしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活リハビリを行うときは、できることできないことを把握して、一人ひとりができることを役割分担している。また、日頃の観察から、入居者の状態に合った、楽しみごとを提供できるように支援している。		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルス感染症防止の為外出は控えている。	コロナ禍のなか戸外に出る機会を作ることが難しい。事業所のペランダを有効活用し自然豊かな立地で景色を眺め野鳥やコウノトリを目にすることもある。1階フロアで、モップや叩きを使い掃除を一緒にしています。一日の活動や参加につなげています。	



自己 第三者	項目	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	次のステップに向けて期待したい内容
50	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金の所持したり使えるように支援している	地域のイベントに参加した際はたこ焼きなどの好みの物を買って頂くよう支援している。			
51	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者全員が、直接ご家族と話せるよう電話をしている。			
52	(23) ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を探り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は、入居者が不快や混乱をまねかないように備品の配置を考慮し、また、気分転換に外気浴ができるようにベランダを活用し、夏場は、すだれで快適に利用できるようにするなど季節を感じられる工夫をして、居心地よく過ごせるようにしている。	共用の空間は利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激がないように配慮し、生活感や季節感を探り入れて居心地よく過ごせるような工夫をしている。		
53	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングと食堂にそれぞれ、ソファやイスがあるのと、1人ひとりが思い思いに過ごせるようになっている。また、仲の良い入居者同士がくつろげるように居室にテーブルとイスを設置している。			
54	(24) ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	観葉植物を置いたり、リースの壁飾りをする、窓から野菜、果物の成長を楽しめるようにするなど、居心地よく過ごせるような工夫をし、一人一人の状態に合わせて居室レイアウトを行っている。	居室は本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、観葉植物を置いたり、リースの壁飾りを壁に掛け、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。		
55	○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりの設置や家具の配置など、安全な動線の確保を心がけ、なるべく見守りで自立歩行を促している。他にも、トイレに大きな標識をして、トイレの場所を覚えていただくようにしている。			